

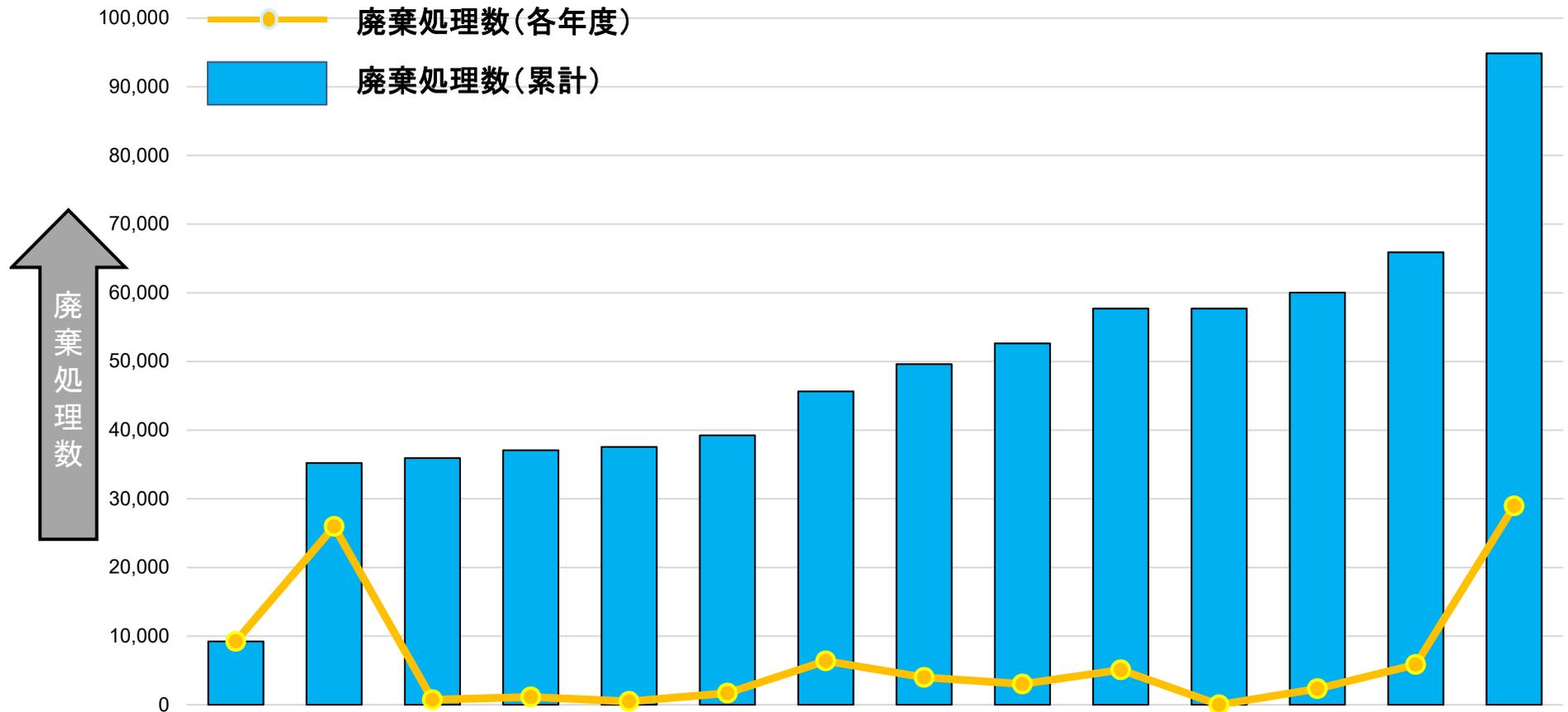
2. 移動式処理事業

別添2

(1) 廃棄処理数の推移 (実績及び予定)

【単位：発】

(2023年3月現在)



年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023 (予定)
廃棄処理数(各年度)	9,229	25,974	728	1,133	486 (430)	1,690 (752)	6,384 (266)	3,983 (0)	3,015 (0)	5,079 (1,828)	0 (0)	2,332 (0)	5,861 (1,754)	28,968 (1,656)
廃棄処理数(累計)	9,229	35,203	35,931	37,064	37,550 (37,494)	39,240 (38,246)	45,624 (38,512)	49,607 (38,512)	52,622 (38,512)	57,701 (40,340)	57,701 (40,340)	60,033 (40,340)	65,894 (42,094)	94,862 (43,750)

※廃棄処理数は化学兵器禁止機関 (OPCW) 報告数

(注) カッコ内の数値は、移動式処理設備による処理数 (内数)

(2) ハルビン事業

【経緯等】

- 2019年に廃棄処理を開始し、1,828発の廃棄処理を実施
- 2020年度及び2021年度は、コロナの影響を受け事業を休止
- 2022年度に事業を再開し、1,754発の廃棄処理を実施

【今後の予定等】

- 2023年度は、1,656発の廃棄処理を予定
- 廃棄計画を踏まえ、黒竜江省の保管庫に保管されている遺棄化学兵器について、ハルビン処理場で2027年中に廃棄を完了する予定

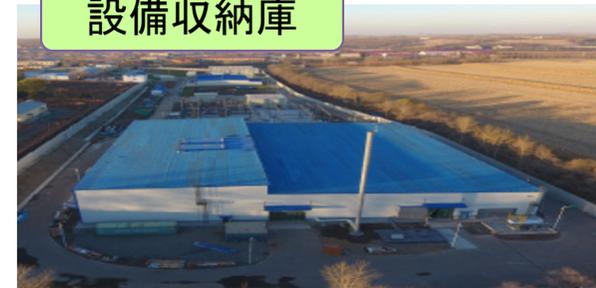
ハルビン処理場全景



チャンバー



設備収納庫



	令和5(2023)年度							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
廃棄処理事業			廃棄処理					除染

(3) 高機動型移動式処理設備の導入（武漢への展開）

【経緯等】

- 2018年度に、従来の移動式処理施設と比較して、より機動的かつ効率的に処理を実施ができる「高機動型移動式処理設備」の導入を開始
- 2022年度は、武漢での事業開始に向けて処理場整備、廃棄処理計画等について日中協議を継続

【今後の予定等】

- 武漢での廃棄処理事業を2023年度中に開始予定
- 廃棄計画を踏まえ、今後、武漢、忻州、ハルビンの処理場において事業を実施。このうち、武漢は2024年中に、忻州は2025年中に事業を完了する予定



(3) 高機動型移動式処理設備の導入 (設備の概要)

【高機動型のメリット】

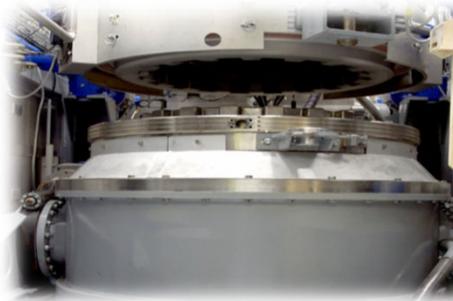
より少ない用地面積に、より短期間で、よりコンパクトな設備・人員をもって展開・撤収可能

項目	現行の移動式処理設備	高機動型移動式処理設備
処理場面積	30,000㎡程度(最小の石家荘の場合)	20,000㎡程度(武漢)
建設期間	最低でも1年半(ハルビンでは6年)	約4か月(用地造成)+18日(施設設置)
処理場の形態	大規模な造成・堅牢な施設	最小限の用地造成・ユニットコンテナの組み合わせ
要員数	45名程度	23名程度
設備	制御爆破方式	加熱爆破方式

展開した設備全景(概要)
後方は処理設備の格納テント



高機動処理設備 I 型爆破チャンバー



高機動処理設備 II 型
きい剤補給容器(200Lドラム缶)装荷



コンテナ外観(設備収納時)



(4) 遼源事業

【経緯等】

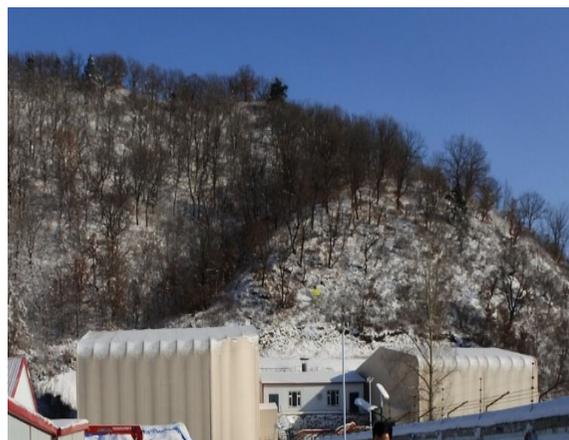
- 1970年代初頭、大量(74トン)の化学剤が石灰と混ぜられた状態で2基の貯液槽に貯蔵された
- 2011年、外務省調査の結果、旧日本軍の遺棄化学兵器としてOPCWに申告
- 2017年より内閣府による調査を開始(保管庫周辺の状況調査、土量調査)
- 2022年2-3月に貯液槽内の内容物の詳細調査を実施

【進捗状況・今後の予定等】

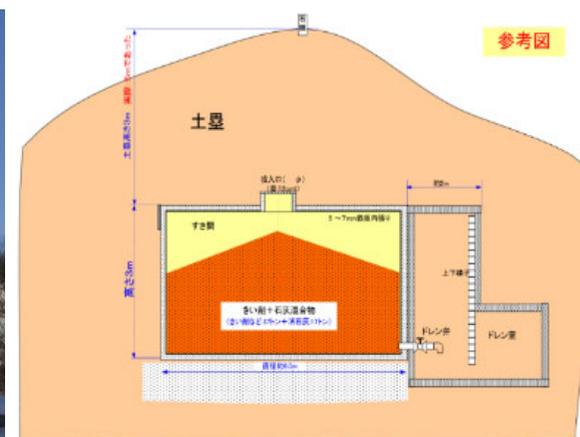
- 2023年度に貯液槽を覆っている上部土砂の全面除去及び追加詳細調査を実施予定
- 2024年中に回収及び廃棄処理技術・設備を選定するとともに、回収設備の設計、施設の整備等をするため、2026年早期に回収事業を開始する予定



保管庫(テント)の外観



地下貯液槽(参考図)



(5) 砲弾輸送 (実績及び予定)

各地で回収された遺棄化学兵器を、廃棄処理のため処理場・保管庫等に輸送し集約する

○ 2022年度実績

鶏西・ジャムス・チチハルからハルビン、

バインノール・晋城から太原、

九江・広州から武漢への事前準備作業(ルート調査・リスク評価)を実施

○ 2023年度予定

5月～9月にかけて、上記ルートの砲弾輸送を実施

輸送ルート



砲弾輸送の車列イメージ



耐爆チャンバー車両



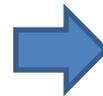
(6) 廃棄物輸送（最終処分）

南京廃棄物のパイロット輸送

- 南京における廃棄処理事業によって発生し、南京保管庫に保管中の廃棄物約20トンを、ドイツの処分場に試験的に輸送し、最終処分を行う事業を実施中
- 廃棄物の国際移動に関する条約及び中国・ドイツの国内法に従い輸出入手続きを行い、2023年中の輸送、最終処分の完了を目指している



燃焼処理された砲弾残渣、焼却灰



輸送梱包済み廃棄物（南京保管庫）